

「あそびの森育成事業」

熊野ロータリークラブ

杉・ヒノキ伐採後、林業経営上の理由で植林の育成の継続が困難となり70年～80年放置されていた山です。土砂崩れを恐れる住民の要望もあり、平成16年に県の森林創造事業の予算も取り付け森林組合の協力も得て、広葉樹を植樹するにあたり、「遊びの森」と名付けました。面積は7町歩、約21,000坪あります。

まず、地元の絵の先生に、春バージョン、秋バージョンの絵を描いていただき実際この絵のようになるように植樹しました。杉やヒノキであれば、1町歩あたり、3,000本～3,500本植えますが、間伐することもなく枝が横に伸びますので、1町歩あたり1,000本、全部で約7,000本を植えることにしました。

アラカシ、ミズナラ、ヤマモモ、トチノキ、栗、クスノキ、クヌギ、コナラ、ホウノ木、カヤなどの実のなる木を中心に植林しました。それ以外には、山桜、ハウチワカエデ、ケヤキ、ヤマモミジ、ナナカマドなどの広葉樹を初年度に植林し、毎年植樹を続けながら森を育てています。山に囲まれた地域なのに、山で遊んだことのない子供たちが多く、植樹イベント当日200本を子供たちと供に植えることにしました。また、会員の中に漁師さんもいることから特に「山は海の母なり」と広葉樹を植えることにより、海の魚介類がどれほど恩恵を受けているか知ってもらう機会にもなりました。今年で9年になります、木の種類にもよりますが、こんなに大きくなった木もあります。

桃栗3年柿8年と言います。栗などは早くから実をつけています

植林後、約6年後の山の様子

植林後、約9年後の山の様子。森林組合の協力のもと、年に2回草刈りを行い、散策道づくりを定期的に行っています。毎年3月には、ロータリークラブ、商工会議所、森林組合などの呼びかけで遊びの森整備事業がおこなわれます。

今年も、草刈り、植樹、しいたけの菌打ち作業などを実施しました。